日本旧石器学会
ニュースレター 第60号
NEWS LETTER No.60
JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION

第 12 回アジア旧石器協会の概要と参加所感

吉田真優（東北大学大学院）

諸言

2025年６月20日から24日に，第12回アジア旧石器協会（The 12th Meeting of the Asian Paleolithic Association，以下APA）が東北大学で開催された。学会は，特別講演，シンポジウム「Early Upper Palaeolithic in Asia: Commonality and Diversity after the IUP」と以下の4つのセッションで構成された。Session Ⅰ: Recent progress in studies on lithic technology and paleoanthropology of genus Homo in Asia, SessionⅡ:Early Upper Palaeolithic technology, fauna, and site formation in Asia, SessionⅢ: A close look at Upper Palaeolithic variabilities in Asia, Poster Session。中国，韓国，ロシア，モンゴルなど様々な地域から130名の参加があり，学会は活況を呈した（写真1）。

特別講演

6月20日16時から，中国科学院古脊椎動物・古人類学研究所のXing Gao氏による特別講演が行われた（写真2）。「Paleolithic Industries in China and Implications for Hominin Evolutionary Trajectories in East Asia」と題し，中国における旧石器考古学の軌跡と近年主要な研究テーマ，旧石器の特徴とその背後に存在するダイナミクスが示された。中国には，約200万年前に人類が到着して以来の豊富なデータが蓄積しており，近年はDNA分析や実験を用いた手法など新たな分析方法によって人類の適応行動が明らかにされている。研究テーマとしては，中国や東アジアに最初に拡散した人類の実態，ホモ・エレクトスの進化と適応，古代型ホモ・サピエンスの実態と進化への貢献，ホモ・サピエンスの起源と進化，旧石器時代の技術伝統の特徴と変遷に関する

写真 1　第 12 回アジア旧石器協会参加者の集合写真

写真 2　Xing Gao 氏による特別講演

研究が最も注目を集めている。

中国の旧石器は多様であるものの，地域的な特徴がみられる。北部ではシンプルなコア・リダクションによる小型剝片石器，中部・南部では大きな剝片から製作されたチョッパー/チョッピング・トゥールなどを主体とした大型礫石器，中部・北部ではチョッパー/チョッピング・トゥールなどが主要であるが散発的にハンドアックスやクリーヴァーがみられる大型剝片テクノコンプレックスが特徴的である。ルヴァロワ技法や初期上部旧石器といった西方の技術は，限られた時空間にしかみられない。このような独特かつ比較的安定した文化伝統は，機動性・柔軟性・実用性を特徴とする。人類が東アジアに到着して以来，地理的に比較的独立しており安定した環境の中で，こうした文化的伝統や行動パターンが生まれ，継続していったことが示された。

研究発表

6月21日にセッションⅠとシンポジウムが実施された。セッションⅠは，アジアにおけるホモ属の石器技術と古人類学に関する研究の進展に焦点が当てられた。7本の口頭発表で構成され，海部陽介氏らによる琉球諸島における航海実験やシミュレーションなどの研究成果に基づいた航海技術や戦略の復原，Chengqiu Lu氏による鄖県人が出土した学堂梁子遺跡の報告，Wenting Xia氏・Shejiang Wan氏による梁山遺跡出土石器に基づいた中期更新世後期における技術変遷の検討，Xiaoling Zhang氏らによるチベット高原の地理的重要性や考古学的成果の発表，Yongwook Yoo氏・Minsoo Kim氏による朝鮮半島のハンドアックスの形態分類を用いた地域的特徴や変遷の検討，西秋良宏氏らによる中期旧石器時代の5m以上の文化層を有するアゼルバイジャンのタグラル洞窟の調査成果と石器群の年代的位置付け，Arina M. Khatsenovich氏らによるモンゴルにおける最新の遺跡調査成果に基づき復原した中期旧石器時代の気候条件と石器製作技術の発表があった。

シンポジウム「Early Upper Palaeolithic in Asia: Commonality and Diversity after the IUP」は13時30分から開始し，佐野勝宏氏による趣旨説明が行われた。これまで，第12回アジア旧石器協会におけるシンポジウム「Variability, similarities and the definition of the Initial Upper Palaeolithic across Eurasia」とTFC Thematic Program 2022 国際シンポジウムの「Session 3: The earliest migration of Homo sapiens into Central and Northeast Asia」においてIUPの類似性と定義が議論された。これを受け，東アジアの人類の形成史を理解するには，ロシアやモンゴルでみられるIUPと東アジアのeUPの連続性，eUPにみられる地域的多様性の出現プロセスを理解することが重要であると認識するに至ったことが紹介された。

続いてUniversity of ExeterのRobin Dennell氏による基調講演が行われた。「Settlement, survival and extinction in the steppe during and after the IUP in MIS 3」と題して，モンゴルにおけるセトルメントの主な特徴と変化，人の居住を制約した主な環境要因と気候要因が示された。出穂雅実氏のコメントのように，ステップの環境において特徴的な干ばつ（Drought）と冬の厳しい寒さによって家畜が大量死するゾド（Dzud）という激しい気候変動が人類史に影響を与えたことが指摘された点は重要である。続いて8本の発表が行われた。Nicolas Zwyns氏らによる有機質遺物が豊富に出土したモンゴル北部のトルボル17遺跡における調査成果の発表，Evgeny P. Rybin氏らによるセリエーションを用いたモンゴル中・北部における石器文化の変遷の検討，Feng Li氏によるこれまで不明瞭であった中国北部の4~2.5万年前の石器群の検討に基づきシンプルなcore-and-flake技術だけでなく多様な小石刃剝離技術が存在したことを示した研究，Peiqi Zhang氏らによる水洞溝遺跡第2地点において石刃技法から伝統的なcore-and-flake技術への逆行がみられた要因を多角的に検討した研究，E. Andrew Bennett氏によるDNA解析で明らかになった東北アジアにおける人類集団の包括的な動態についての発表，大谷薫氏・Eunjeong Kim氏によるスヤンゲ遺跡第4文化層出土石器の解説と韓国における他の遺跡との比

較分析，戸塚瞬翼氏らによる日本列島における放射性炭素年代測定データに基づいた遺跡の増減や石器群の変遷から人口動態の推定や気候変動との関連の検討をした発表，藤田祐樹氏による琉球諸島における考古学的調査の成果に基づく古環境の推定や東南アジアとの関連を検討した発表である。

22日にセッションⅡ・Ⅲとポスターセッションが行われた。セッションⅡの主題は，アジアにおける後期旧石器時代前半期の技術・動物相・遺跡形成である。10本の発表で構成され，Yueshu Zhang氏らによる金斯太洞穴遺跡の微細形態学による中期から後期旧石器時代の遺跡形成過程の分析，Yixiao Li氏らによる金斯太洞穴遺跡の動物相等のデータを対象とした中期旧石器時代の東ユーラシア草原生態系における人類の生存戦略に関する研究，Fei Peng氏らによる水洞溝遺跡の再調査の成果と中国北部の他の遺跡のデータとの統合による地域的な技術的・文化的特徴や変容の検討，Wencheng Li氏による約4.5万年前の中原における小型剥片石器群の技術変遷を織机洞遺跡と老奶奶廟遺跡の出土石器からとらえた研究，Sujin Gwon氏による後期旧石器時代前半期の遺跡の性格（原産地からの距離等）ごとの石材利用のパターンが示された研究，Jihyo Park氏による朝鮮半島におけるMIS3の大型動物相に地理的・環境的文脈を組み込んだ分析，佐藤宏之氏による日本列島の後期旧石器時代の開始についての香坂山遺跡における発見を踏まえた新たな説明，尾田識好氏らによる武蔵台遺跡のⅩ層の遺物の三次元分布からパリンプセストを分解しAMS法によるデータを再検討した発表，鹿又喜隆氏による岩手県大台野遺跡の石器群のうちⅠ群を対象とした痕跡学的分析と赤鉄鉱や黄鉄鉱の出土から遺跡内での多様な活動を推定した研究，Vladimir Kharevich氏らによるシベリア南部に位置するサバニカ3遺跡に基づいたエニセイ盆地のEUPの特徴に関する発表があった。

セッションⅢでは，アジアにおける後期旧石器の変異性に焦点が当てられた。10本の発表で構成され，Radu Iovita氏による堆積学や植生・動物相のデータおよびPALAEOSILKROADプロジェクトで調査された遺跡の年代に基づいてカザフスタンにおけるセトルメントと気候の間の相関関係を検討し近隣の遺跡と比較した研究，Mirosław Masojć氏らによる放射性炭素年代測定とOSL年代測定の結果に基づいたゴビ砂漠における居住の継続性の検討，Ting Xu氏らによる後期旧石器時代のシンプルな剥片剥離技術による石器群，石刃石器群，細石刃石器群を有する和龍大洞遺跡の発掘調査の報告，森先一貴氏・岩瀬彬氏による古本州島の後期旧石器時代・縄文時代草創期の遺跡から取得した放射性炭素年代測定結果のうち信頼性のあるデータに基づいて人口動態の傾向・気候変動・文化的変化の間の相関関係を示した研究，Kyung Jin Kim氏・In Sun Seo氏による韓国における黒曜岩製彫器に骨や角との接触を示す使用痕跡と着柄痕跡が観察され形態や地域による差も示された発表，Valeriya Mikhienko氏らによるデニソワ洞窟出土の細石刃・小石刃と開地遺跡の出土石器との技術形態の比較に基づいた時期や技術伝統の検討，Ekaterina Bocharova氏らによる3Dスキャン・コンピュータ断層撮影・マイクロCTを用いた東シベリアの植刃器の溝の形態分析に基づく製作方法の推定と使用時に接着剤を使用した可能性を示した研究，Yanghua Song氏による285基の炉跡が出土した柿子灘遺跡29地点を対象に5種類の炉の構造を復元した実験に基づいてその機能を推定した研究，Aleksei V. Tetenkin氏によるバイカル-パトム高地に位置するコヴリシカⅣ遺跡のLGM末期のデータを対象とした包括的な研究によりオーカーの運搬・使用や細石刃剥離技術などの様々な成果を示した発表，Yu Cao氏らによる三次元幾何学的形態測定法と多変量解析を用いて水洞溝遺跡第12地点と虎頭梁遺跡の細石刃剥離技術において遺跡間の差異および遺跡内での変動性を定量的に明らかにした発表があった。ポスターセッションでは，13時30分～14時30分にコアタイムが設けられ，39本の発表が行われた。今回のポスターセッションは，発表内容が多種多様であった点が特徴である。参加者は，自分の研究と関連する内容の発表者に声をかけたり，馴染みのない分析手法に対して関心を持って質問をしたりし，各所で活発な議論が交わされた。

ポストカンファレンス・エクスカーション

23日にエクスカーションが行われた。8時30分に川内キャンパス西側の駐車場に集合した後，バスで山形県うきたむ風土記の丘へ移動した。うきたむ風土記の丘では，山形県で出土した後期旧石器時代前半期から縄文時代草創期までの全15遺跡の代表的な遺物がテーブルにずらりと並び，参加者はそれらを手に取って観察することができた。同博物館に

写真３　日向洞窟の見学風景

て昼食をとった後，バスで10分程度の距離にある日向洞窟へ移動した。当遺跡では，隆起線文土器や槍先形尖頭器といった縄文時代草創期の遺物が出土している。参加者は続々と洞窟内に入って撮影をしたり，発掘経験者に質問をしたりしていた（写真3）。再びバスで仙台市へ戻り，16時に仙台市富沢遺跡保存館に到着した。富沢遺跡では，後期更新世の森林跡と後期旧石器時代のたき火跡や石器が発見された。樹木やたき火跡は，大地から切り離さず発掘当時の姿のまま保存処理を施して公開されている。展示を1時間半見学した後，18時半に仙台駅で解散した。

結言

幅広い地域・世代の研究者が一堂に会し，活気に溢れた4日間であった。シンポジウムのテーマである，アジアにおけるeUPの共通性と多様性については，各地域における最新情報が発表され，現在の成果が共有された。筆者が特に感銘を受けた発表は，主に若手研究者が推し進める，実験痕跡研究や微細形態学的分析などの新規の手法による研究である。得られる情報を余すことなく研究に活かして実証的に人類の行動を明らかにしようとする取り組みが，遺跡に対する多角的な分析を可能にしている。さらに，それらの結果が統合されることで，人類の活動がより高い解像度で明らかにされつつあることを感じた。今後の更なる発掘成果の蓄積と，より広い地域間における繋がりの検討が期待される。

2024 年度委員会報告

2025年6月21日（土）に日本旧石器学会総会が仙台にて開かれた。2024年度の活動について各委員会の報告があり，審議の後に承認された。内容については以下の通りである。

総務委員会

2024年度の活動報告

2024年度の総務委員会の活動は以下の通りである。

(1) 会員情報の管理

・2024年度新入会員3名，退会者は1名で，2025年4月1日現在での会員数は会費長期滞納により権利を停止している会員を除き233 名である。

(2) 総会・研究発表・シンポジウム開催に関する意見交換・連絡調整・資料の作成

・2024年度は岡山理科大学で対面開催した。懇親会も実施した。

(3) 会務に関する連絡・調整，各委員会間の連絡・調整

・随時メール連絡等を通じて実施

(4) 会誌，ニュースレター，各種学会連絡文書の発送に係る事務

・会誌の発送業務： 2025年6 月上旬予定，21号

・ニュースレターの発送業務：2024年8月第57号，12月第58号，2025年5月第59号（予定）

(5) 日本考古学協会で図書交換会が再開されたが，

刊行時期の関係から卓は設けず，シンポジウム予稿集及び会誌は全て郵送とする。
(6) 研究グループ支援制度に関する事務
・「旧石器基礎研究・次世代育成グループ（パレオ・ラブ）」（研究代表者：堤 隆）については，2024年度活動報告をニュースレター第57号に掲載。継続支援を希望。
(7) 日本旧石器学会賞
・2024年度総会において2023年度学会賞・論文賞の授与式を行った。2024年度若手奨励賞は該当者なしとなった。
・2024年度の学会賞，論文賞選考に係る事務を行った。
(8) メーリングリストに関すること
・郵送費の削減や会員への連絡の事務作業量の軽減のため，メーリングリストへの登録を原則，義務化している。現在の登録人数は205名となった。
(9) 共催・資料提供等について
・資源環境と人類2024シンポジウム「黒曜石研究の射程ーその拡張に向けて一」(2025年1月26日）を普及講演会として共催。

会計委員会
1. 2024年度の活動実績について
(1) 役員会，総会・研究発表・シンポジウム時（※現金による取扱い）
・会費・学会刊行物頒布代金の徴収（総務委員会と協同）及び収入の学会口座への預入
・各委員会立替金，仮払金等の現金支出
・日本旧石器学会賞（若手奨励賞）は該当者なし（6/22 岡山理科大）
(2) 通年（※口座による取扱い）
・会費納入状況管理，会費納入・住所変更等の総務委員会への報告，刊行物頒布等収入の管理
・シンポジウム登壇者，普及講演会講師及び会議・普及講演会・データベースワークショップに出席した役員の交通費補助額の算定・支払（2024年度はシンポジウム登壇者の1名，その他執行なし）
・刊行物（会誌20号，ニュースレター56号）印刷・発送費支払（ニュースレター57号以降はPDF）
・HP管理，メーリングリスト構築運用委託費，会誌PDF化委託の支払
・APA日本大会経費積立金の口座管理（積立金入金・支払等）
・役員引継ぎに伴う経費，及び研究グループ運営経費（2024年度1件）の支出
・その他，学会出納口座の管理

2. 2024年度決算（案）について（表1・2参照）
(1) 一般会計
収入
・予算額を135,385円下回った。会誌等の配布，会費納入が伸びなかったことにより予算額を下回った。
支出
・会議費・会場設営費，旅費交通費，通信運搬費，消耗品費，印刷製本費，委託費，日本旧石器学会賞関連経費等で支出減となった。とくに，印刷製本費について，会誌印刷費を複数の業者に見積を取ったため，大幅減になった。そのため，予算を603,743円下回った（予備費を除く）。
総括
・296,143円の黒字が発生し，2025年度への繰越金は2,362,458円となった。
(2) 特別会計
・所定の150,000円を積み立て，1,380,090円（利子73円）を2025年度に繰り越した。
(3) 会計監査
・2025年6月4日に，会計監査委員から監査を受け，適正な執行の確認をして頂いた。

会誌委員会
2024年度活動報告
(1) 会誌「旧石器研究」第21号の編集・刊行
・6月20日発行（印刷部数300部）。今後，会員には登録された連絡先宛てに配達される。

・掲載論考は以下の論文6本，研究ノート2本，書評1本，大会報告1本である。
【論文】
金彦中
「ハンマーストーンの分析による石器製作技術と動作－東日本の後期旧石器時代前半期石器群の諸事例－」
加藤真二
「中国北部における北方系細石刃石器群の出現と展開」
小原俊行・早田勉・鈴木茂・國木田大・小林克也・

表1　日本旧石器学会　2024 年度一般会計決算(案)　単位:円

収　入				
費　目	予算額	決算額	増　減	摘　要
会費収入				
会費収入	1,362,000	1,290,000	△72,000	延べ 215 人・年 【内訳】20 年度 1 人、21 年度 4 人，22 年度 5 人，23 年度 14 人，24 年 181 人、25 年度～10 人
その他の収入				
会誌頒布代金	160,000	149,600	△ 10,400	最新刊(20 号)20 冊，バックナンバー25 冊
シンポジウム予稿集頒布代金	228000	194,400	△ 33,600	2024 年度は 132 冊，バックナンバー23 冊
その他収入	67000	47,300	△19,700	会誌カラー印刷(著者負担)
前年度繰越収支差額	2,066,000	2,066,315	315	
収入 計	3,883,000	3,747,615	△135,385	
支　出				
費　目	予算額	決算額	増　減	摘　要
会議費・会場設営費	125,000	88,493	△ 36,507	総会・シンポジウム運営補助
旅費交通費	83,000	13,000	△ 70,000	シンポジウム発表者交通費(3件)辞退
通信運搬費	53,000	87,608	34,608	会誌送料、引継資料送料、信書問題で支出増
消耗品費	3,000	0	△ 3,000	
印刷製本費	1,255,000	923,650	△ 331,350	会誌，シンポ予稿集・NL1 件(送料含む)、会誌 5～8 号 PDF 化
諸謝金	9,900	9,900	0	師範への謝金
委託費	198,000	66,000	△132,000	HP 管理、メーリングリスト構築運用委託費
次回 APA 日本大会経費積立	150,000	150,000	0	
研究グループ運営経費	15,000	15,000	0	1 件
日本旧石器学会賞関連経費	68,000	7,040	△ 60,960	賞状製(ただし、学会賞該当者なし)
雑費	29,000	24,466	△ 4,534	郵便振替・振込手数料
予備費	1,894,100	2,362, 458	468,358	
支出 計	3,883,000	3, 747,615	△135,358	

※単年度収支

費　目	予算額	決算額	増　減
前年度繰越金を除く収入	1,817,000	1,681,300	△135,700
予備費を除く支出	1,988,900	1,385,157	△ 603,743
収支差額	△171,900	296,143	

表 2　日本旧石器学会　2024 年度特別会計(APA 日本大会開催経費積立)　決算(案)　単位:円

収　入				
費　目	予算額	決算額	増　減	摘　要
積立金収入	150,000	150,000	0	次回 APA 日本大会経費積立金
その他の収入	0	73	73	利子 86 円-税額 13 円
前年度繰越収支差額	1,230,017	1,230,017	0	
収入 計(①)	1,380,017	1,380,090	73	
支　出				
費　目	予算額	決算額	増　減	摘　要
APA 日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	100,000	0	△100,000	
予備費	0	0	0	
支出 計(②)	100,000	0	△100,000	
次期繰越金(①-②)	1,280,017	1,380,090	100,073	

米田穣
「浅間板鼻黄色軽石(As-YP)降下期におけるテフラ年代と古環境変遷の研究－群馬県高崎市宿大類塚之越遺跡での分析を中心に－」
戸塚瞬翼
「後期旧石器時代前半期の関東地方における狩猟具の種類と時期的変遷」
崔笑宇
「北方系細石刃石器群における遺跡構造の研究－山形県角二山遺跡2017-2020年度出土資料を中心に－」
工藤雄一郎・森将志・會田容弘
「後期旧石器時代前半期における福島県笹山原No.16遺跡の古環境－猪苗代湖西北岸域の赤井谷地における約5万年前以降の古環境分析から－」
【研究ノート】
及川穣・小林謙一・米田穣・尾窃大真・大森貴之・小林克也・小嶋善邦・遠部慎・今岡友佳
「岡山県真庭市城山東遺跡の年代学的検討－後期旧石器時代前半期台形様石器群の検討と炭化材の樹種同定および放射性炭素年代測定－」
藤野次史・中村由克・竹田千紘・洪恵媛・沖憲明・稲村秀介・川島尚宗
「帯磁率を利用した安山岩原産地推定と石材運用の研究－広島県西ガガラ遺跡第1地点出土資料の分析事例を中心に－」
【書評】
堤 隆
「書評 鈴木忠司著『岩宿時代日本列島の生業と集落』」
【大会報告】
傍島健太
「日本旧石器学会第22回研究発表・シンポジウム「湧別技法：展開とその背景」」
(2) 会誌バックナンバーPDF化
・2024年度に5~8号のPDF化を完了した。今回で20号まで既刊のPDF がそろったこととなる。

ニュースレター委員会
2024年度活動報告
2024年度からニュースレターはPDFによる配布のみになり，作業量の軽減と予算の縮減が果たせられた。昨年度は第57号，第58号，第59号(2025年度にずれ込み）の編集・発行を行なった。

【第57号】2024年8月5日刊行 [12 頁]
・会長就任のご挨拶（堤 隆）
・2023年度委員会報告
・2024年度活動計画
・2023年度日本旧石器学会賞受賞者
・2024年度学会賞の推薦について
・日本旧石器学会研究グループの募集
・2024年度日本旧石器学会役員会(2024年4月～2025年3月）
・『旧石器研究』の原稿募集・メーリングリストへの登録•お知らせ
【第58号】2024年12月23日刊行 [7 頁]
・寄稿記事「道北宗谷海峡周辺域の旧石器」
（夏木大吾）
・2023年度日本旧石器学会賞受賞者報告
・資源環境と人類2024 シンポジウム・普及講演会のお知らせ
・2024年度学会賞の推薦について
・日本旧石器学会研究グループの募集
・お知らせ
【第59号】2025年4月30日刊行 [11 頁]
・寄稿記事「中国の初期人類遺跡と旧石器研究の現状泥河湾発見100 周年および北京原人発見95 周年国際会議参加記」（村井咲月・尾形優真）
・アジア旧石器協会(APA) 第12回大会について
・2025年度日本旧石器学会総会のお知らせ
・2024年度日本旧石器学会普及講演会報告
・2024年度日本旧石器学会研究グループ活動報告
・新刊紹介，お知らせ

渉外委員会
2024年度活動報告
1.アジア旧石器協会(APA)に関して
(1)第12回アジア旧石器協会日本大会プログラム関連
・APAプログラム委員（佐野，出穂，森先，平澤）で，大会プログラムについて協議し，シンポジウム・テーマを決定し，シンポジウム発表者の選定・打診を開始した(2024年7月)。
・APAプログラム委員で，2nd Circularを作成し，発表者，参加者の募集を開始した(2024年8月)。
・APAプログラム委員で，アブストラクトの査読を開始した(2025年1月末)。

・APAプログラム委員で，口頭発表者を選出し，口頭発表者，ポスター発表者に連絡した(2025年2月～3月)。
・APAプログラム委員で，3rd Circularを作成し配信した(2025年3月）。
・開催地メンバー（佐野，鹿又，大場，渋谷，平塚）で，エクスカーションの準備を進めた(2024年11月～2025年3月)。
(2)第12回アジア旧石器協会日本大会登録関連
・渉外委員（佐野，鈴木，平澤）で，登録フォームに基づき，参加者リストの作成を開始した(2024年12月)。
・渉外委員で，ビザが必要な国からの参加者に対し，必要な手続きに関する事務手続き準備，対応を行った(2025年2月～3月）。
(3)第12回アジア旧石器協会日本大会助成金
・公益財団法人仙台観光国際協会に，令和7年度コンベンション開催助成を申請し，2025年4月に内定した。
(4)アジア旧石器協会執行委員関連
・各国にアジア旧石器協会の現状の執行委員を確認し，以下のメンバーが現状の各国執行委員であることを確認した。
ロシア：Andrei I. Krivoshapkin，Evgeny Rybin，Arina M. Khatsnovich
中国：Shejiang Wang，Fei Peng，Feng Li
韓国：Kee-Ta Kim，Sujin Kong，Enjeong Kim
日本：佐藤宏之，佐野勝宏，鈴木美保
・第12回アジア旧石器協会日本大会における審議事項について，メール等にて個別に協議した。

2. 海外でのシンポジウム等の情報提供
・2024年度は，海外における国際学会・シンポジウムの会員への情報提供は実施しなかった。

研究企画委員会
2024年度活動報告
第22回日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウムの開催
・2024年6月22日（土）～23日（日）
・会場：岡山理科大学理大ホール

【6月22日（土）】
総会
学会賞授賞式
一般研究発表
・伊藤健
「信州／南関東間を展開する面取尖頭器石器群について」
・三好元樹・及川穣・小林謙一・遠部慎・早田勉・下岡順直・米田穣・尾崎大真・大森貴之・小林克也・沖野実・岡嶋隆司・菅紀浩・小嶋善邦・杉山歩夢・今岡友佳
「後期旧石器時代前半期における蒜山高原遺跡群の研究ー岡山県真庭市小林河原遺跡の発掘調査と年代学的検討を中心として一」
・及川穣
「隠岐諸島から中国山地における後期旧石器時代人類の行動領域」
・岩瀬彬・佐野勝宏・長崎潤一・大竹憲昭・山田昌久
「複製した後期旧石器時代前半期の刃部磨製石斧を用いた実験痕跡研究」
・尾田識好・森先一貴・岩瀬彬・國木田大・米田穣
「武蔵台遺跡X 層における人類の居住年代」
・夏木大吾
「石器の向きと遺跡形成過程：北海道吉井沢遺跡の事例」
・戸塚瞬翼
「日本列島の後期旧石器時代前半期における基部加工尖頭器の形態的選好性」

【6月23日（日）】
シンポジウム『湧別技法：展開とその背景』
・研究企画委員「趣旨説明」
・青木要祐
「東北・北陸地方への湧別技法の展開」
・堤 隆
「関東・中部地方への湧別技法の展開」
・光石鳴巳
「近畿・中四国地方への湧別技法の展開」
・加藤真二
「中国北部における湧別技法の展開」
・平澤悠
「東西ベリンジアの湧別技法：北米移住仮説に関する視点から」

ポスターセッション

・森先一貴・神田和彦・國木田大・雀桐赫・米田穣
「地蔵田遺跡の居住年代」
・岩瀬彬・夏木大吾
「北海道大正3遺跡から出土した縄文時代草創期の剥片石器を対象とした石器使用痕分析」
・鈴木秋平
「楔形石器の行動論的評価ー山形県丸森l 遺跡，宮城県薬莱山No. 8 遺跡の分析を通して一」
・菅紀浩・氏家敏之
「井島遺跡採集の大型ナイフ形石器群」
・高倉純・坂梨夏代・越田賢一郎・渡井瞳・北村成世•長崎潤一
「北海道八雲町大関遺跡の尖頭器石器群」
・橋詰潤・会田進
「長野県木曽町西又II遺跡出土の有茎尖頭器を伴う石器群の再検討」
・北村成世・高倉純・長崎潤一・Alexandr Ulanov
・阿部嵩士・鯉沼来人
「北海道磯谷郡蘭越町立川1遺跡出土の石刃核」
・中村由克
「サヌカイトと安山岩の判別一帯磁率による非破壊原産地推定法ー」
・藤野次史・中村由克・竹田千紘・洪恵媛・沖憲明・稲村秀介・川島尚宗
「帯磁率を利用した安山岩原産地推定と石材運用の研究－広島県西ガガラ遺跡第1地点出土資料の分析事例を中心に－」
・山岡拓也・新美倫子・石原与四郎・橋詰潤・井口智博・高倉純
「静岡県浜松市滝沢鍾乳洞遺跡と行者穴遺跡の発掘調査」
・小菅将夫・日本考古学協会社会科教科書等検討委員会
「小学校社会科教科書における旧石器時代の記載の変遷」
・岩瀬彬・森先一貴・崔桐赫
「岩手県上萩森遺跡IIb文化層を対象とした痕跡研究」

パネルディスカッション，講評，若手奨励賞発表・閉会セレモニー

データベース委員会

2024 年度活動報告

更新・改訂作業

(1)基本方針

・「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを“最新のデータにもとづき，より使いやすく，維持管理の容易なデータベースに！”
・2010年版以降の新データと欠落データの追加・補足，収録情報の確認，とくに位置情報の高精度化を進める。
・文献書誌情報の外部データベースとの紐づけ（奈文研「遺跡総覧」ほか）。
・更新作業の進捗状況の確認

(2)「旧石器遺跡マッピングパーティー」更新作業ハンズオン・ワークショップ(WS)

・栃木県・群馬県など，前回のWS 実施から時間の経った地域での開催を検討中。

(3) 更新・改訂版の公開準備

・学会ホームページ上に更新・改訂版の公開ページを設置し，更新・改訂が終了した地域のデータを公開。
・愛媛県，徳島県，和歌山県の更新版DB の公開に向けてアルケーリサーチへ問合せ中。
・2024年10月より英文化DB の公開を開始。

入会審査委員会

2024年度活動報告

2024年4月1日から2025年3月31日の2024年度期間中に以下の4名からの入会申し込みがあり，その資格審査を氏家，大竹で厳正に行い，会長に結果を報告した。

野口智輝（ノグチ トモキ） 2025年1月15日受付，1月20日資格審査結果報告

両角太一（モロズミ タイチ） 2025年1月15日受付，1月20日資格審査結果報告

松井喬行（マツイ タカユキ） 2025年2月17日受付，2月19日資格審査結果報告

稲村秀介（イナムラ シュウスケ） 2025年3月27日受付，3月28日資格審査結果報告

広報委員会

2024年度活動報告

(1)ホームページおよびメーリングリストによる関連情報の周知

・6月27日普及講座「パレオ・カフェ第1回」の案内
・8月2日普及講座「旧石器時代：信州最古の時代

の研究最前線」の案内
・8月8日「ニュースレター第57号」発刊とHP掲載のお知らせ
・8月16日「APA日本大会2nd Circular」のHP掲載
・10月12日高槻市今城塚古代歴史館「旧石器時代企画展」の案内
・11月18日「東北日本の旧石器文化を語る会第38回」の案内
・11月19日科研費・学術変革領域(A)「統合生物考古学」の若手研究集会の案内
・12月17日学会HPにおけるAPA日本大会abstract締切延長のお知らせ
・12月23日「ニュースレター第58号」に2024年度普及講演会のお知らせを掲載
・12月24日「ニュースレター第58号」発刊とHP掲載のお知らせ
・1月23日「資源環境と人類2024シンポジウム」の案内
・3月12日「栃木県鹿沼市タンデンパ遺跡発掘調査」の案内
(2)普及講演会の実施
・開催日：2025年1月26日（日）明治大学黒耀石研究センターと共催
・開催場所：明治大学駿河台キャンパスグローバルフロント
・講師：小野昭（東京都立大学名誉教授）
・講演タイトル：「黒曜石研究のこれまでとこれから」
「ニュースレター第59号」に実施報告を掲載した。

2025 年度活動計画

2025年6月21日（土）に日本旧石器学会総会が開かれた。2025年度の活動計画案について各委員会から報告が行われ，審議の後に承認された。

総務委員会

2025 年度の活動計画（案）

以下の項目及び経常的な会務に取り組む。
(1) 総会・APA の準備・連絡調整
・2025年度の総会・APA は，2025年6月に東北大学にて対面開催。公式懇親会を実施する。
(2) 日本旧石器学会賞の選考
2025年8月
2026年3月
2026年5月
・ニュースレター第60号で「学会賞推薦」の告知
学会賞選考委員会を開催し，推薦をもとに受賞者候補を決定，役員会で承認・決定
・2026年6月日本旧石器学会総会にて授賞式
(3) 次期役員選挙2026 年度
・2025年5月14日本役員会にて選挙管理委員会候補の審議
・2025年6月21日総会にて選挙管理委員会の承認
・2025年12 月ニュースレターで選挙告示
・2026年2月立候補・候補者推薦締切
・2026年2月選挙公報および投票用紙の送付
・2026年3月選挙管理委員会による開票
(4) 研究グループ
・2025年度の研究グループ公募をニュースレター第60 号にて行う。

会計委員会

2025年度活動計画及び予算(案)について（表3・4参照）
(1) 一般会計
・前年度執行額・予算額をベースに予算編成及び執行を行う。ただし，オンライン開催から対面方式による開催へと変更する行事については，コロナ禍前の執行額をベースに予算編成及び執行を行うこととする。
・役員会，総会・研究発表・シンポジウム，普及講演会，ワークショップ等の開催に係る経費については，オンラインと対面を有効的に使い分け，機動的かつ適正な執行に努める。
・2025年度シンポジウム予稿集印刷費は，APA予稿集印刷費で執行する。
・会員に対する刊行物の配付経費等，複数の業者に見積を取り，その他の経費についても適正な執行に努める。
・予備費の適正な活用により,活動の充実を図るとともに，経営安定にも配慮する。(例) ホームページリニューアルや過去刊行物のホームページ掲載用PDF作成等

(2) 特別会計
・1,380,073円をAPA日本大会の予算として執行する。

・次回開催にむけ200,000円を積立てる（物価高騰に対応するため，50,000円加増）。
・2025年2月8日に堤隆会員（現会長）より寄付の申し出があり，「国際交流・若手育成基金」を設立（1,000,000円）。

会誌委員会
2025年度活動計画（案）
・旧石器研究22 号の編集・刊行
　会誌の刊行時期が後ろにずれる傾向があるため，次号は5 月中旬の刊行を目標とし，原稿募集や締め切りを2024 年度よりも繰り上げて実施する。今年度は比較的多くの投稿エントリーがあったが，引き続き投稿原稿が集まるよう，広報周知に努める。また，投稿規定について，適宜改善を図るため継続的に検討する。

ニュースレター委員会
2025年度活動計画（案）
　今年度は第60 号，第61 号，第62 号の編集・発行を行う。会員からの積極的な寄稿をお願いするものである。

【第60号】2025年8月10日刊行予定
・寄稿記事
・2024年度委員会報告
・2025年度活動計画
・2024年度日本旧石器学会賞受賞者
・2025年度学会賞の推薦について
・2025年度日本旧石器学会役員会名簿(2024年4月～2026年3月）
・2025年度研究グループの募集
・お知らせ
【第61号】2025年12月1日刊行（予定）
・寄稿記事
・2024年度日本旧石器学会賞受賞者報告
・次期役員選挙(2026年度）についての告知
・2026年度研究大会の案内
・普及講演会の案内
・関連学会，出版情報，お知らせ
【第62号】2026年4月1日刊行（予定）
・寄稿記事
・2026年度総会・研究発表・シンポジウムの案内
・普及講演会報告
・2025年度研究グループ活動報告
・2026年度役員選挙開票結果
・関連学会,出版情報，お知らせ

渉外委員会
2025年度活動計画（案）
(1) アジア旧石器協会(APA)に関して
・第12回アジア旧石器協会日本大会の準備を進める。
・2025年6月20-24日に，東北大学にて第12回アジア旧石器協会日本大会を開催する。
・第12回アジア旧石器協会日本大会の協会執行会議において，APAの次の開催地，APA加盟国拡大等について審議する。
・第13回アジア旧石器協会の開催地が決定した場合は，日本旧石器学会会員に速やかに報告する。
(2) 海外でのシンポジウム等の情報提供
・昨年度は，国際学会ならびにシンポジウムの開催情報に関する情報提供を行わなかったが，2025年度は積極的に会員に情報提供を行う。

研究企画委員会
2025年度活動計画（案）
　第24回日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウムの準備・検討
日程：2026年6月中・下旬開催予定（調整中）
会場：明治大学（予定）

データベース委員会
2025年度の活動計画（案）
(1) 改訂・更新作業の継続
　更新作業WS をオンライン開催，協力者を確保し作業方法を周知する。開催地域の候補としては栃木県・群馬県を想定。
(2) 改訂・更新版の公開
　作業が完了した地域から，都道府県単位での公開を予定。
　研究活用事例の発信。
(3) 課題
・各地域でWSを開催し，かつ開催後の更新作業を進めるマンパワーが不足している。
・広く協力者を得ることとともに，DB 委員を中心に安定して作業を進められる体制づくりが必要。
・作業協力者から，更新作業の方法に関して不明な点があり，現行のマニュアルだけでは対応が難しい

表 3 日本旧石器学会 2025 年度一般会計予算(案) 単位:円

収 入				
	2025 年度予算(案)	【参考】2024 年度決算(案)	【参考】2024 年度予算	摘 要
会費収入				
会費収入	1,428,000	1,290,000	1,362,000	会員数 238 人×6,000 円
その他の収入				
会誌頒布代金	149,000	149,600	160,000	2024 年度実績の千円未満切捨
シンポジウム予稿集頒布代金	194,000	194,400	228,000	2024 年度実績の千円未満切捨
その他収入	4,000	47,30	67,000	2024 年度実績の千円未満切捨
前年度繰越収支差額	2,362,458	2,066,315	2,066,000	
収入 計	4,137,458	3,747,615	3,883,000	
支 出				
会議費・会場設営費	94,700	88,493	125,000	オンライン会議システム使用料, 総会・シンポジウム会場設営等・昼食代, DB ワークショップ会場等使用料
旅費交通費	58,000	13,000	83,000	シンポジウム発表者・DB ワークショップ開催委員の交通費補助
通信運搬費	91,000	87,608	53,000	総会案内印刷発送費、会誌送料等
消耗品費	3,000	0	3,000	事務用品等
印刷製本費	713,900	923,650	1,255,000	会誌印刷, シンポジウム予稿集印刷, NL 印刷・発送・HP 掲載用 PDF 作成費
諸謝金	9,900	9,900	9,900	奨励賞名入れ代
委託費	198,000	66,000	198,000	HP 管理・メーリングリスト構築運用・HP リニューアル費(3ヶ年分割)
次回 APA 日本大会経費積立	200,000	150,000	150,000	
研究グループ運営経費	15,000	15,000	15,000	
日本旧石器学会賞関連経費	37,000	7,040	68,000	賞状製作(3 賞), 副賞,
雑費	29,000	24,466	29,000	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費	2,687,958	2,362,458	1,894,100	
支出 計	4,137,458	3,747,615	3,883,000	

(備考)年度間の繰越金を除く単年度収支

費 目	2025 年度予算(案)	【参考】2024 年度決算(案)	【参考】2024 年度予算
前年度繰越額を除く収入	1,775,000	1,681,300	1,817,000
予備費を除く支出	1,449,500	1,385,157	1,988,900
収支差額	325,500	296,143	△171,900

表 4 日本旧石器学会 2025 年度特別会計(APA 日本大会開催経費、及び積立) 予算(案) 単位:円

収 入				
	2025 年度予算(案)	【参考】2024 年度決算(案)	【参考】2024 年度予算	摘 要
積立金収入	200,000	150,000	150,000	次回 APA 日本大会経費積立金
その他の収入	0	73	0	利子
前年度繰越収支差額	1,380,090	1,230,017	1,230,017	
国際交流・若手育成基金(新規)	1,000,000	0	0	
収入 計(①)	2,580,090	1,580,090	1,380,017	
支 出				
代表者宿泊費	540,000			
代表者国内交通費	265,500			
代表者食費	90,000			
代表者登録料	135,000			
代表者巡検参加費	90,000			
予稿集印刷製本費	210,000			APA 予稿集印刷費
予備費	49,590			
支出 計(②)	1,380,090	0	100,000	
次年度繰越金(①-②)	1,200,000	1,380,090	1,280,017	

との意見が寄せられた。マニュアルの更新と作業Q&Aの作成が必要。
・公開済みデータベースについても，今後は遺跡リポジトリとの定期的なリンク更新が必要となる。

入会審査委員会
2025年度活動計画（案）
次年度も引き続き，入会申込者の資格審査を迅速に行う。会員各位におかれては入会希望者の掘り起こし，特に新卒者や各地域研究会などで石器研究への関心を持っている方々への声掛けをお願いしたい。

広報委員会
2025年度活動計画（案）
日本旧石器学会や旧石器時代のPRと関連情報の周知のために，以下のとおり活動する。
(1)普及講演会を開催し，学会や旧石器時代の周知・PRに努める。
(2)旧石器時代の理解を促進するために，一般向けの記事を追加する。
(3)ホームページを改善し，アクセス数の増加を図る。

寄付金について

2025年2月8日，堤隆会員（現会長）から寄付の申出が総務委員会に入る。寄付金は，考古学研究の発展のため，国際交流と若手育成に利用して欲しいとのご希望であった。同日，大竹副会長と総務委員会の鹿又が相談し，次回役員会に諮ることを決定した。また，寄付金が現会長からであるため，その経緯を役員会および総会にて詳細に報告するという方針を決めた。2月9日，会計委員会の大場と受入と運営について相談する。3月5日の役員会にて，寄付金について説明し，受入を承認される。役員会で決定した事項は以下の通りである。

① 寄付金は基金扱いとし，通常会計とは区別する。
② 2025年度予算案には支出項目として寄付金の使途を記載しない。
③ 2025年度に入ってから役員会で相談のうえ，必要に応じて寄付金を使用する。
④ 2025年度の会計報告の際に使途や経緯を説明する。
⑤ 寄付金の使途は，寄付者の意向に沿って，国際交流と若手育成を主とする。

5月30日，寄付金が特別会計の口座に振り込まれ，受入を完了した。6月21日の総会にて報告し，承認された。

2024 年度日本旧石器学会賞受賞者

2025年2月27日(木）に2024年度日本旧石器学会賞選考委員会を開催し，学会賞候補者1名，論文賞候補者1名を選考しました。これを受け，5月14日（水）に役員会において選考結果を報告し，承認されました。授与式は6月21日に行いました。若手奨励賞については，6月22日に選考委員会を開催して1名を選考し，同日に授与式を行いました。

2024年度学会賞受賞者
中村由克　会員
（下仁田自然史館館長・明治大学客員研究員）

2024年度論文賞受賞者
三好元樹　会員
（公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター）

2025年度若手奨励賞受賞者
熊谷亮介　会員　（宮城県教育委員会）

選考理由と受賞者の言葉は本紙次号に掲載します。

2025 年度学会賞の推薦について

「日本旧石器学会賞規定」に則り，2025年度の学会賞受賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員を推薦してください。

推薦内容：学会賞受賞候補
推薦期間：
2025年9月15日(月)～2026年2月15日(日)（必着）
推薦者の資格：日本旧石器学会員
推薦方法：学会賞受賞候補の氏名，学会賞受賞候補の推薦理由，推薦者の氏名・連絡先をご記入の上，

郵送もしくは電子メールにより下記の事務局あてに
送付して下さい。
注意事項：
・推薦は自薦・他薦を問いませんが，お一人につき一名を限度とします。
・学会賞受賞候補は，日本旧石器学会会員に限ります。推薦にあたって，学会賞受賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。
・推薦の書式は自由です。
・推薦理由は概ね100字から300字にまとめてください。

応募先・照会先：日本旧石器学会事務局
（担当：鹿又喜隆・長﨑潤一・尾田識好）
〒206-0033　東京都多摩市落合1-14-2
東京都埋蔵文化財センター調査研究部
尾田識好方
E-mail: jimu@palaeolithic.jp

日本旧石器学会研究グループの募集

日本旧石器学会では，旧石器考古学またはこれに関連する研究課題について国内・国外の情報を交換し，研究することを目的として，研究グループを設置しています。「日本旧石器学会研究グループ規定」には自由に研究を行うことができ，運営費を補助することが盛り込まれています。

つきましては2025年度の日本旧石器学会研究グループを募集します。研究グループの発足を希望する会員は，グループ名，代表者名，連絡先，研究目的，活動予定期間，参加者数，運営費交付希望の有無などを記入して本学会事務局に応募してください。募集期間は2026年3月31日（火）まで。応募・問合わせは，日本旧石器学会事務局へ電子メールまたは郵送でお願いします。

応募先・照会先：日本旧石器学会事務局
（担当：鹿又喜隆・長﨑潤一・尾田識好）
〒206-0033　東京都多摩市落合1-14-2
東京都埋蔵文化財センター調査研究部
尾田識好方
E-mail: jimu@palaeolithic.jp

2025 年度日本旧石器学会役員会

会　長：堤　隆
副会長：大竹憲昭
幹　事：青木要祐　岩瀬　彬　上峯篤史
氏家敏之　大場正善　尾田識好
鹿又喜隆　小原俊行　佐野勝宏
鈴木美保　仲田大人　長﨑潤一
中村雄紀　夏木大吾　野口　淳
間直一郎　橋詰　潤　洪　惠媛
松本　茂　三好元樹

総務委員会：＊鹿又喜隆　長﨑潤一　尾田識好
森先一貴　舟木太郎
会計委員会：＊大場正善　三好元樹　越知睦和
岩瀬 彬
会誌委員会：＊中村雄紀　小原俊行　松本 茂
沢田 敦
ニュースレター委員会：＊仲田大人　夏木大吾
上峯篤史
渉外委員会：＊佐野勝宏　鈴木美保　出穂雅実
平澤 悠
研究企画委員会：＊岩瀬 彬　青木要祐　洪 惠媛
佐藤悠登　須賀永帰
データベース委員会：＊間 直一郎　氏家敏之
野口 淳　熊谷亮介
入会審査委員会：＊氏家敏之　大竹憲昭
広報委員会：＊夏木大吾　橋詰　潤

会計監査委員：渋谷孝雄　石川恵美子

選挙管理委員会：＊渡辺丈彦　髙屋敷飛鳥
堀 恭介
日本旧石器学会賞選考委員：＊森先一貴　堤 隆
大竹憲昭　岩瀬 彬　鹿又喜隆

＊は委員長，＿は委嘱委員

アジア旧石器協会
会　長：佐藤宏之
執行委員：佐野勝宏　鈴木美保

お知らせ

日本旧石器学会では

学生会員を募集しています

学生会員の入会に関する細則

1. 入会資格

学生会員は，入会年度の４月１日の時点において年齢満18歳以上の個人で，大学の学部または大学院の学籍を有し考古学を研究する者するものです。

推薦者として，指導教員や共同に研究を実施する者などの研究を熟知している正会員の氏名（自署）・所属・連絡先，及び推薦文を必要とし，年度毎に学生証の提示を求めます。 資格は，学生の身分の終了年度で終了します。

2. 会員の特典

会員は，会誌「旧石器研究」，「ニュースレター」の配布を受け，会誌への投稿と学会発表が認められます。また，学会役員の選挙権が得られますが，被選挙権はございません。

3. 年会費の納入について

年会費は，3,000円です（正会員の半額）。年会費は事務局から送付される郵便振替口座の払込票を用いて，最寄りの郵便局よりお振込み下さい。なお，領収書の発行は払込金受領証をもって代えさせていただきます。なお，決算期日より3ヵ年に渡り会費納入が滞ると，会誌，ニュースレター等の配布が停止しますので，ご注意ください。滞納会費の納入によって，配布は再開します。

4. 入会手続き

入会申込書に必要事項記載の上，下記宛へメール添付下さい。

入会審査委員会による書類審査を行います。入会を承認された者には入会通知をメール通知します。

申込・照会先：日本旧石器学会事務局
E-mail: jimu@palaeolithic.jp

5　個人情報の取り扱いについて

ご登録いただきました個人情報は，日本旧石器学会の運営（使用内容：学会からの郵送物の送付，役員選挙，学会運営に必要な資料の作成等）の目的のみに使用いたしますのでご了承下さい。

学生会員の推薦のお願い

学生会員制度の設立にあたり，会員の皆様から学生会員の推薦を受け付けます。学会HPに「入会申込書・学生会員用」に下記の事項を記載のうえ，推薦者がお申し込みください。

・入会申し込み日
・氏名，生年月日
・住所，電話番号，Eメールアドレス
・所属大学，所属先の住所，電話番号
・論文や学会発表等の業績
（単著・共著，タイトル，書誌名（発表会名），頁，刊行年月日）
・教員・共同研究者からの推薦文（500字程度）

2025 日本考古学協会 公開シンポジウム

「人類はどこから来て，どこへ向かうのか」

日　時　2025年9月7日（日）
会　場　明治大学駿河台キャンパス
　　アカデミーコモン３階 アカデミーホール
定　員　会場 500名　オンライン参加 300名
参加費　会場 1,200円　オンライン参加 1,700円
申込み　日本考古学協会公式サイトから
https://archaeology.jp/info/symposium/961
【8月31日（日）締切】

プログラム：
コーディネーター　石川日出志
司　会　　大竹幸恵　河野礼子

基調講演

・石川日出志
「戦後80年に考える学術と人類史」
・佐藤宏之
「旧石器文化研究から見た日本列島人類史の始まり」
・奈良貴史
「人類学と考古学の接点―人間性の起源を探る」
・太田博樹
「ゲノムが語る人類の拡散」
・堤　隆
「遺跡が語る人類文化の軌跡―サピエンス 氷期の生存戦略」

・討　論「人類はどこへ向かうのか･･･」

石器文化研究会シンポジウム

「関東・東海地方の旧石器時代研究の現在」

日　時　2025年9月27日（土）・28日（日）
会　場　明治大学駿河台キャンパス
　　グローバルフロント 1階 多目的室
参加費　無料
申込み　石器文化研究会ホームページから
　　https://sekki.jp/archives/323
　　【8月31日（日）締切】

日　程

【9月27日（土）】
・諏訪間 順
「南関東の旧石器編年の学史的検討」
・酒巻孝光
「星野遺跡発掘から60年のいま（日本列島の中期旧石器）」
・鈴木秋平
「後期旧石器時代前半期前葉における『狩猟具』のコンセプト～型式論・機能論の方法論的再整理を通して～」
・白石浩之
「基部加工を主体としたナイフ状石器の様相－AT下位の石刃石器群との関連性－」
・宇井義典
「南三里塚宮原第１遺跡の現在－下総台地の後期旧石器時代前半期を考える－」
・西井幸雄
「２つの環状ブロック群－清河寺前原遺跡と津久井城馬込地区－」
・麻生順司
「相模野旧石器時代前半期の再整理」
・鈴木美保
「南関東の石器群編年とMISステージ2の環境変動」
・小原俊行
「後期旧石器時代後半期前葉の編年研究－関東平野北西部」
・井関文明・脇　幸生
「相模野台地における最終氷期最寒冷期前後の諸活動」
・高屋敷飛鳥
「相模野台地における砂川期からナイフ形石器終末期にかけての石器群の様相と年代」

【9月29日（日）】
・伊藤　健
「悉皆集成による武蔵野編年第Ⅱb～Ⅳ期の再構成」
・富樫孝志
「静岡県磐田原台地における旧石器時代石器群編年の再検討」
・諸星良一
「関東地方における北方系細石刃石器群」
・長澤有史
「相模野台地における狩猟具の様相－L1S層出土石器群を中心とした予察－」
・堤　隆
「下茂内尖頭器石器群の放射性炭素年代とその編年的位置付け」

・討　論

ポスターセッション

・絹川一徳
「瀬戸内技法研究の現在－東日本への波及を考える」
・野口　淳
「「石槍」の三次元形態測定学」

・前嶋秀張
「緑色凝灰岩および緑色岩を使用した石斧の分布と原産地の調査」
・天野早苗
「下河原崎谷中台遺跡の角錐状石器を伴う石器群について」
・金　彦中
「ハンマーストーンの分析と石器製作技術と動作復元－東日本の後期旧石器時代前半期石器群の諸事例から－」
・尾崎沙羅
「叭原遺跡の再整理作業－その手順と成果－」
・野口智輝
「相模野台地における男女倉型有樋尖頭器の衝撃剝離痕跡」
・矢野賢太
「剥片尖頭器石器群における原産地的様相の検討－熊本県石清水遺跡の資料を通して－」

＊予稿集は当日頒布いたしません。近くなりましたらホームページ上に掲載しますので，各自ダウンロードしてお持ちください。

第42回中・四国旧石器文化談話会の開催

「兵庫県から旧石器時代前半期を考える」

日　時　2025年11月29日（土）・30日（日）
会　場　兵庫県立考古博物館
（加古郡播磨町大中1-1-1）
資料代・参加費　要（調整中）
申込み　要　※送迎バスは先着順
下記URLから申し込んでください。
https://forms.gle/vc11sRCbbjamKC8S7
【11月14日（金）締切】

日　程
【11月29日（土）】
開会挨拶
・三好元樹
「趣旨説明：兵庫県から旧石器時代前半期を考える」
・山口卓也
「板井寺ヶ谷遺跡下位文化層の石器群／近畿地方石器石材調査についての踏査報告」
・藤田 淳
「七日市遺跡（Ⅰ）第Ⅱ文化層の再検討」
・久保弘幸
「勝手野遺跡と七日市遺跡第Ⅲ文化層～AT下位石器群の二つの様相～」
・山本 誠
「七日市遺跡（Ⅲ）の再検討」
・稲原昭嘉
「明石市周辺の旧石器時代遺跡」
・手嶋響紀
「七日市遺跡・板井寺ヶ谷遺跡出土の局部磨製石斧」
・各県近況報告

【11月30日（日）】
・伊藤徳広・西村　葵
「松江市団原Ⅱ遺跡発掘調査概要」
・洪 惠媛
「蒜山原笹畝遺跡第2地点2025年度発掘調査概要」
・沖 憲明
「冠遺跡Ｃ地点第１ユニット出土石器の再検討」
・国武貞克
「冠遺跡第8地点2024年発掘調査成果概要」

遺物見学①
パネルディスカッション
閉会挨拶
遺物見学②

『旧石器研究』投稿募集

会誌『旧石器研究』第22号（2026年5月発行予定）への投稿を募集しています。投稿をご希望の方は，以下の要領で会誌編集委員会宛にお申し込みください。

投稿の事前連絡
下記の内容を2025年9月末までにご連絡ください。

(1) 原稿の種別
(2) 執筆者氏名（連名の場合は責任著者を明記）
(3) 原稿の表題（仮題でも可）
(4) 連絡先

原稿締め切り
・2025年10月末日　論文・総説・研究ノート・資料報告
・2025年11月末日　翻訳・書評

投稿規定・執筆要項
最新版は会誌最新号および学会ホームページに掲載しておりますので，原稿作成に際し必ずご参照ください。
・原稿の種別とページ数（上限）
論文・総説：20ページ
研究ノート・資料報告・翻訳：10ページ
書評：6ページ
・挿図・図版のカラー掲載

次号よりカラーの挿図・図版を費用負担なしでPDF版に掲載することが可能となります。PDF版は著者に提供されるほか，今後ウェブ公開を行う予定です。希望する場合は投稿時にお申し入れください。なお，紙面上にカラー印刷する場合の費用は従前通り著者負担となります。

申込・照会先：日本旧石器学会会誌編集委員会
E-mail: jpra.ec6@gmail.com

メーリングリストへのご登録

日本旧石器学会ではメーリングリストを活用しております。学会からの連絡手段として利用するとともに，情報交換の場としても活用するために設けたものです。ニュースレターのPDF配布等にも利用されます。そのため，2024年6月の総会により，入会時に届出いただいているメールアドレスをメーリングリストに登録させていただくこととなりました。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

登録メールアドレスの変更を希望される方は，下記事務局メールアドレスまでご連絡ください。
E-mail: jimu@palaeolithic.jp

日本旧石器学会入会申込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては，入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロードし，必要事項を記載の上，日本旧石器学会事務局へ郵送してください。入会資格審査にあたっては論文等著作物の提出を求める場合があります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

応募先・照会先：日本旧石器学会事務局
E-mail: jimu@palaeolithic.jp

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は，皆様の会費によって運営されており，会費は原則前納制としております。未納の方は今年度分会費の納入をお願いします。会費は6,000円です。

振込先：
日本旧石器学会　郵便振替番号00180-8-408055

会費滞納は本会運営に大きな支障を招く原因になります。会費納入状況をご確認のうえ，2024年度以前の会費を未納の方は，未納分もあわせて納入をお願いいたします。

転居された方は，必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても，本会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載いただくか，または事務局までメール等でご連絡ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第60号
2025年８月15日発行
編集: 日本旧石器学会ニュースレター委員会
仲田大人・夏木大吾・上峯篤史
発行: 日本旧石器学会
事務局：〒206-0033
東京都多摩市落合1-14-2
東京都埋蔵文化財センター調査研究部
尾田識好方　日本旧石器学会事務局
E-mail　jimu@palaeolithic.jp
HP http://palaeolithic.jp/index.htm